

## 5. 病原体検査検出結果

### (1) ウイルス検査結果

#### ア 四類感染症の病原体

##### 【ダニ媒介感染症（日本紅斑熱、重症熱性血小板減少症候群（SFTS））】

県内医療機関から、日本紅斑熱等のダニ媒介感染症疑いとして搬入された患者検体 29 例（日本紅斑熱 21 例 42 検体、SFTS 8 例 8 検体）について検査を実施した。日本紅斑熱疑い 21 例のうち、遺伝子検査を行った 13 例中 7 例から *Rickettsia japonica* 遺伝子が検出された。また、抗体検査を行った 8 例中 1 例から IgM 抗体及び IgG 抗体の上昇が認められた。一方、SFTS 疑い患者 8 例については遺伝子検査を実施したが、いずれも陰性であった。

##### 【蚊媒介感染症（デング熱、チクングニア熱、ジカウイルス感染症）】

県内医療機関からデング熱等の蚊媒介感染症疑いとして搬入された患者 1 例（2 検体）について検査を実施したが、デングウイルス遺伝子、チクングニアウイルス遺伝子、ジカウイルス遺伝子、デングウイルス NS1 抗原、抗デングウイルス IgG/IgM 抗体はいずれも検出されなかった。

#### イ 五類感染症（全数把握対象）の病原体

##### 【麻しん・風しん】

県内医療機関から麻しん又は風しん疑いとして搬入された患者 10 例（29 検体）について遺伝子検査を実施したが、麻しんウイルス遺伝子及び風しんウイルス遺伝子はいずれも検出されなかった。

##### 【後天性免疫不全症候群（HIV）】

県内保健所の迅速検査で陽性又は判定保留となり、当センターに搬入された 1 検体について抗体検査を実施したが、HIV-1 抗体及び HIV-2 抗体はいずれも検出されなかった。

##### 【梅毒】

搬入された患者 154 件について抗体検査を実施した結果、RPR 法で 2 例が陽性、TPPA 法で 8 例が陽性、1 例が判定保留であった。

##### 【急性脳炎】

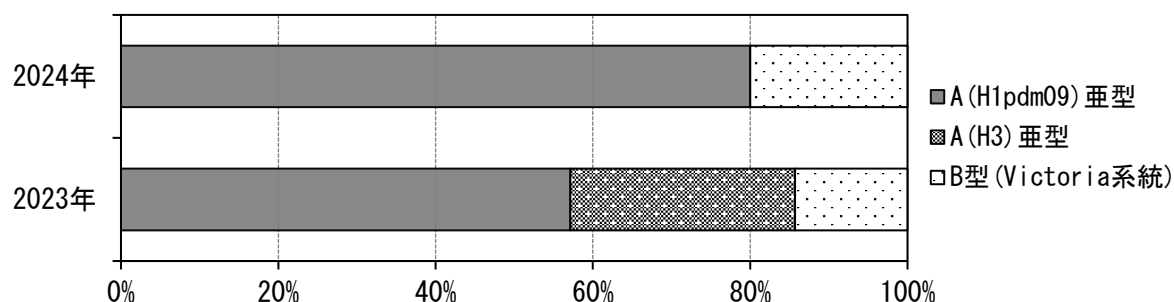
県内医療機関から急性脳炎として搬入された患者 2 例（6 検体）について遺伝子検査を実施した結果、1 例から単純ヘルペスウイルス 1 型が、別の 1 例から EB ウイルスが検出された。

#### ウ 五類感染症（定点把握対象）の病原体（病原体定点医療機関からの搬入検体）

##### 【インフルエンザ】

インフルエンザと診断された 5 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、B 型（Victoria 系統）が 1 件、A（H1pdm09）亜型が 4 件検出された。

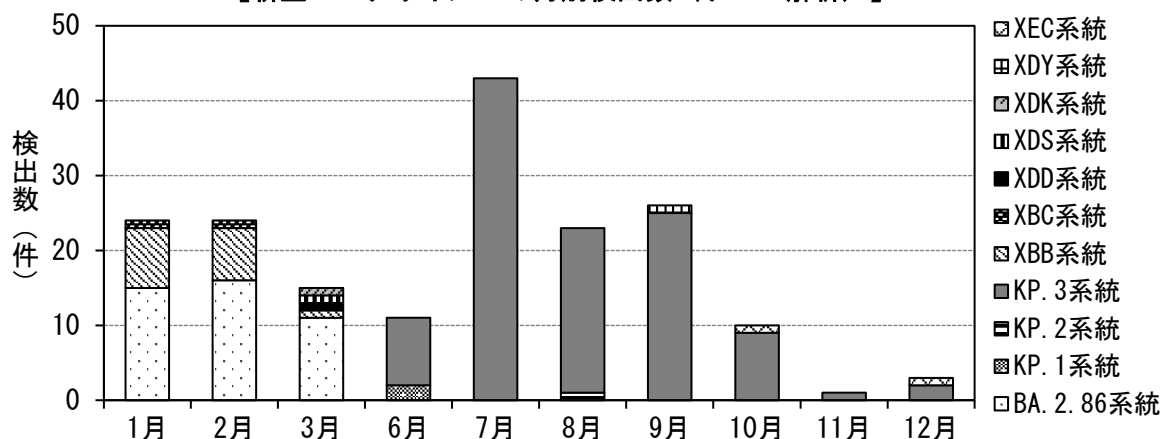
【インフルエンザウイルスの型別検出状況】



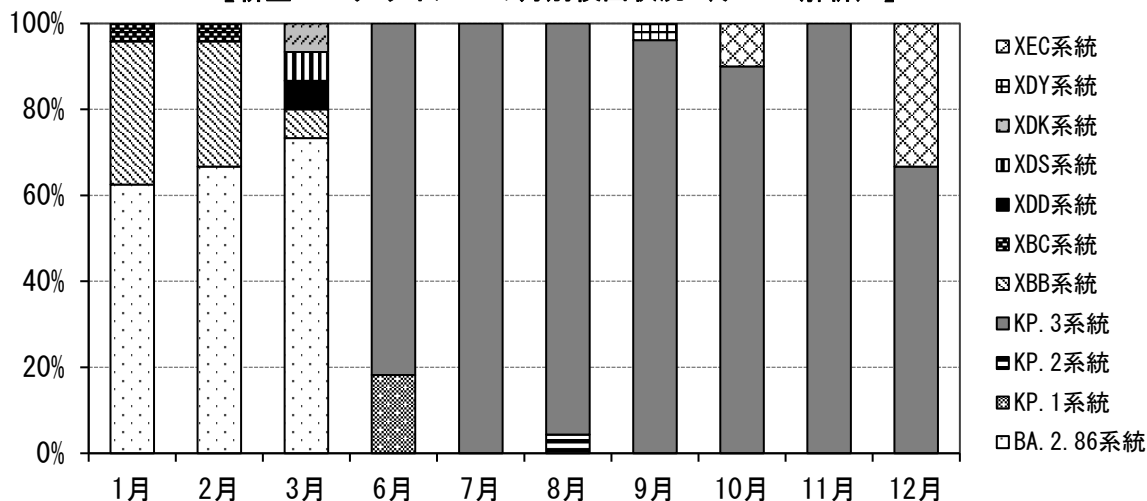
【新型コロナウイルス感染症】

新型コロナウイルス感染症と診断された 352 検体について遺伝子検査を実施した結果、新型コロナウイルスが 341 件検出された。このうちゲノム解析が可能であった 180 件の内訳は、オミクロン株が 156 件、組換え株が 24 件であり、オミクロン株が約 87%と大部分を占めた。また、オミクロン株（156 件）のうち KP.3 系統が約 71%を占め、組換え株（24 件）では XBB 系統が約 67%を占めた。

【新型コロナウイルスの月別検出数（ゲノム解析）】



【新型コロナウイルスの月別検出状況（ゲノム解析）】



### 【感染性胃腸炎】

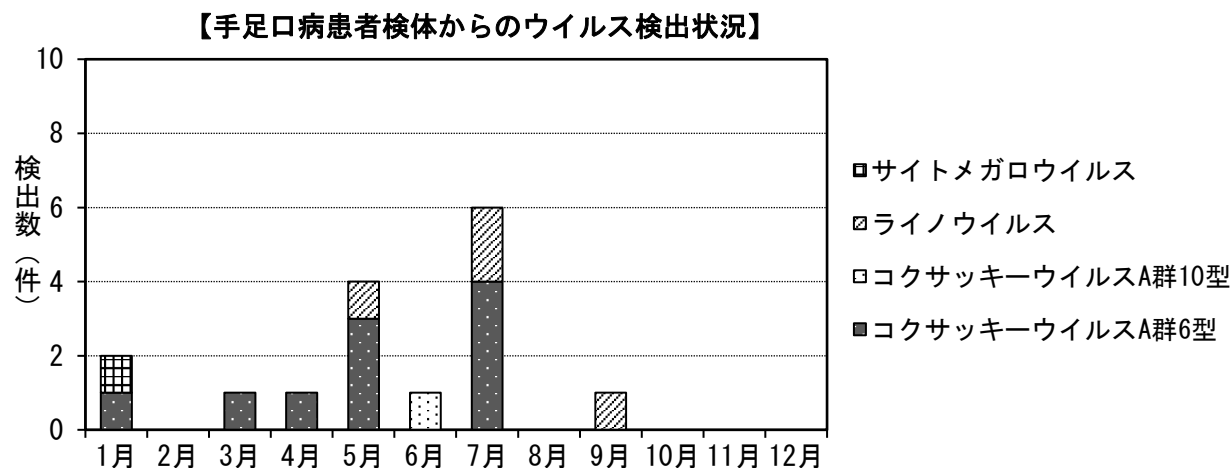
感染性胃腸炎と診断された 3 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、ライノウイルスが 2 件、ヒトパレコウイルス 1 型が 1 件検出された。

### 【水痘】

水痘と診断された 1 検体について遺伝子検査を実施したが、水痘・帯状疱疹ウイルスは検出されなかった。

### 【手足口病】

手足口病と診断された 13 検体について遺伝子検査を実施した。検出されたウイルスの内訳は、コクサッキーウイルス A 群 6 型が 10 件、コクサッキーウイルス A 群 10 型が 1 件、ライノウイルスが 4 件、サイトメガロウイルスが 1 件であった（重複検出を含む）。



### 【伝染性紅斑】

伝染性紅斑と診断された 3 検体について遺伝子検査を実施したが、ヒトパルボウイルス B19 は検出されなかった。

### 【流行性耳下腺炎】

流行性耳下腺炎と診断された 4 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、ヒトヘルペスウイルス 6B 型が 1 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 2 件、パラインフルエンザウイルス 3 型が 1 件、EB ウイルスが 1 件検出された（重複検出を含む）。

### 【無菌性髄膜炎】

無菌性髄膜炎と診断された 15 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、サイトメガロウイルスが 1 件、単純ヘルペスウイルス 1 型が 1 件検出された。

#### 【インフルエンザ様疾患】

インフルエンザ様疾患と診断された 7 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、アデノウイルス 3 型が 1 件、ライノウイルスが 2 件、ヒトヘルペスウイルス 7 型が 1 件、ヒトパレコウイルス 6 型が 2 件検出された（重複検出を含む）。

#### 【不明発しん症】

不明発しん症と診断された 6 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、ヒトヘルペスウイルス 6B 型が 2 件、ライノウイルス及びサイトメガロウイルスが 1 件ずつ検出された（重複検出を含む）。

#### 【その他】

その他の感染症と診断された 18 検体について遺伝子検査を実施した。その結果、ライノウイルスが 8 件、サイトメガロウイルスが 3 件、EB ウイルスが 2 件、ヒトメタニューモウイルスが 2 件、パラインフルエンザウイルス 1 型が 1 件、パラインフルエンザウイルス 3 型が 2 件、RS ウイルス B 型が 1 件、インフルエンザウイルス B 型（Victoria 系統）が 1 件、ヒトパレコウイルス 1 型が 1 件、ヒトパレコウイルス 6 型が 1 件検出された（重複検出を含む）。

## （２）細菌検査結果

### ア 三類感染症の病原体

#### 【腸管出血性大腸菌感染症】

県内で腸管出血性大腸菌感染症として届出がされ搬入された菌株 19 株について、分離菌株の確認検査や Multiple-locus variable-number tandem repeat analysis (MLVA) 法による遺伝子型別を実施した。

No.	診断月	管轄保健所	血清型	VT 型別	MLVAtype <sup>1)</sup>	疫学情報など
1	2 月	徳島	O157:H7	VT1/VT2	24m0041 (23c017)	(県外株と集積あり)
2	5 月	吉野川	O111:H-/Hg8	VT1	24m3017	
3	6 月	徳島	O157:H7	VT2	23m0079	
4	7 月	徳島	O111:H8	VT1	24m3025	
5	7 月	徳島	O111:H8	VT1	24m3025	NO. 4 の接触者
6	7 月	徳島	O157:H7	VT1/VT2	24m0320	
7	7 月	徳島	O103:H2	VT1	24m4018	
8	8 月	吉野川	O111:H-/Hg8	VT1/VT2	24m3035	(県外株と集積あり)
9	8 月	徳島	O157:H7	VT2	24m0321	
10	8 月	吉野川	O157:H7	VT2	24m0322	(県外株と集積あり)
11	8 月	吉野川	O157:H7	VT2	24m0323	NO. 10 の接触者
12	8 月	徳島	O157:H-	VT1/VT2	24m0307	
13	8 月	徳島	O157:H7	VT2	22m0163	(県外株と集積あり)
14	8 月	徳島	O157:H-	VT1/VT2	24m0307	
15	9 月	阿南	O157:H-	VT1/VT2	24m0307	NO. 14 の接触者
16	9 月	徳島	O121:H19	VT2	19m5007	
17	9 月	徳島	O157:H7	VT1/VT2	24m0579	(県外株と集積あり)
18	10 月	美波	O103:H-/Hg2	VT1	17m4006	
19	10 月	徳島	O111:H-/Hg8	VT1	24m3066 (24c304)	(県外株と集積あり)

<sup>1)</sup> 国立感染症研究所により 17 種類の遺伝子座のリピート数で決定。番号が近いものが必ずしも似ているとは限らない。

### イ 五類感染症（全数把握対象）の病原体

#### 【カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症】

患者由来株 10 株が搬入された。菌株の内訳は、*Klebsiella aerogenes* 4 株、*Escherichia coli* 3 株、その他 3 株であった。PCR 法による  $\beta$ -ラクタマーゼ遺伝子の検出を実施した結果、IMP 型遺伝子を保有していた株が 3 株あった。一方、検査対象としたいずれの耐性遺伝子も保有しない株は 7 株であった。

#### 【劇症型溶血性レンサ球菌感染症】

患者由来株 7 株が搬入され、Lancefield 分類による群別を行ったところ、A 群が 4 株、G 群が 3 株であった。A 群は、すべて *Streptococcus pyogenes* であり、G 群は *Streptococcus dysgalactiae* ssp. *equisimilis* (SDSE) であった。*S. pyogenes* の T 血清型別では、1 型が 2 株、12 型が 1 株、型別不能が 1 株であった。*S. pyogenes* 及び SDSE について、M タンパク又は M 様タンパクをコードする遺伝子により行う *emm*

型別では、*S. pyogenes* は、*emm* 1 型が 2 株、*emm* 12 型が 1 株、*emm* 49 型が 1 株であった。このうち *emm*1 型 2 株は、M1<sub>UK</sub> 株であった。SDSE では、stG485 型が 2 株、stG245 型が 1 株であった。

## 令和6年 臨床診断名別病原体検出状況

検出病原体		インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発疹	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	インフルエンザ様疾患	不明発疹症	脳炎・脳症	その他	計
インフルエンザウイルス	A(H1pdm09)	4																4
	B(Victoria系統)	1															1	2
パラインフルエンザウイルス	1																1	1
	3										1						2	3
ヒトメタニューモウイルス																	2	2
RSウイルス																	1	1
ライノウイルス					2		4							2	1		8	17
コクサッキーウイルスA群	6						10											10
	10						1											1
ヒトパレコウイルス	1				1												1	2
	6												2				1	3
アデノウイルス		3												1				1
単純ヘルペスウイルス		1											1			1		2
EBウイルス											1					1	2	4
サイトメガロウイルス							1						1		1		3	6
ヒトヘルペスウイルス	6										1				2			3
	7										2			1				3
合計		5			3		16				5		2	6	4	2	22	65

## 令和6年 月別病原体検出状況

検出病原体		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
インフルエンザウイルス	A(H1pdm09)							1		1		2		4
	B(Victoria系統)		1		1									2
パラインフルエンザウイルス	1					1								1
	3				1	1	1							3
ヒトメタニューモウイルス		1											1	2
RSウイルス					1									1
ライノウイルス		1		1	1	3		3	4	3			1	17
コクサッキーウイルスA群	6	1		1	1	3		4						10
	10						1							1
ヒトパレコウイルス	1								1		1			2
	6						1	1	1					3
アデノウイルス		3	1											1
単純ヘルペスウイルス		1			1	1								2
EBウイルス				1				2	1					4
サイトメガロウイルス		1			2	1			1				1	6
ヒトヘルペスウイルス	6	1		1	1									3
	7				1		2							3
合計		6	1	4	10	10	5	11	8	4	1	2	3	65